

稚魚トラップ

このほかの増殖行為の1つとして認められている
汲み上げ放流の1例をご紹介します。



材 料

60cm×30cm×5cm程度の浅いカゴ
ふるい (2cm目くらい)
バケツ、タライ (砂利を入れる)
スコップ・クワ
1ミリ目の細かい網地

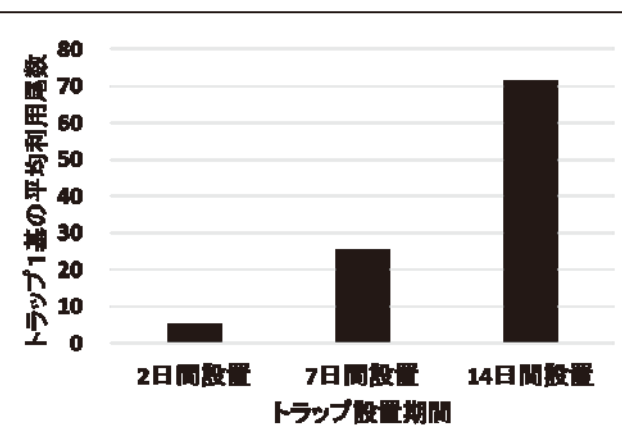


稚ウナギトラップ製作コスト

「礫を入れたまま持ち上げられるトラップ」
強度のある水産用カゴ使用の場合
1基当たり約3,000円

「礫を入れたまま持ち上げられないトラップ」
強度のない花苗カゴ使用の場合
1基当たり700円

※ 現地で礫を掘って、ふるうためのクワ、
フルイやバケツ。固定するためのロープや
土嚢袋が状況に応じて必要になります。



稚魚トラップに入った稚魚数の例

- ・ 設置期間は1週間から2週間が適当です。設置期間が長いとトラップが目詰まりしてしまいます。
- ・ 1個ずつ設置できますが、複数連結して設置することもできます。
- ・ 増水しそうな場合は事前に回収しましょう。
- ・ 流れの速い場所では、土嚢袋等を利用して、固定しましょう。

(山口県水産研究センター)

※ウナギ稚魚の採集は知事の特別採捕許可が必要ですので、自治体の水産担当課に相談しましょう。設置する場合には河川管理者と協議しましょう。

ウナギのためにできること

【発行】 水産庁 平成30年3月

【編集】 国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所 内水面研究センター 矢田 崇

【協力】 岐阜県水産研究所 武藤義範

愛知県水産試験場 稲葉博之

山口県水産研究センター 畑間俊弘

鹿児島県水産技術開発センター 平江多績

中央大学法学部 海部健三、脇谷量子郎

このパンフレットは、水産庁「内水面資源生息環境改善手法開発事業」(平成25～29年度)の成果として作成されました。

ウナギのために できること

—ウナギが住みやすい環境とは—

ウナギを増やすために何ができるか。
そのために、ウナギが住みやすい環境と、
その生息環境を広げるための方法を
ご紹介します。

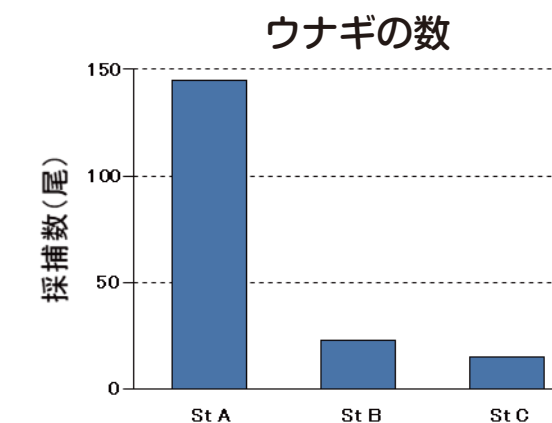


海と川のつながり

全国の川で調べると、ウナギは河口近くに最も多く住んでいて、
上流に行くほど数が少なくなります。

さらに堰堤やダムがあると上下の移動が阻害されて、ウナギは
さらに少なくなります。

<鹿児島県花渡川の事例>



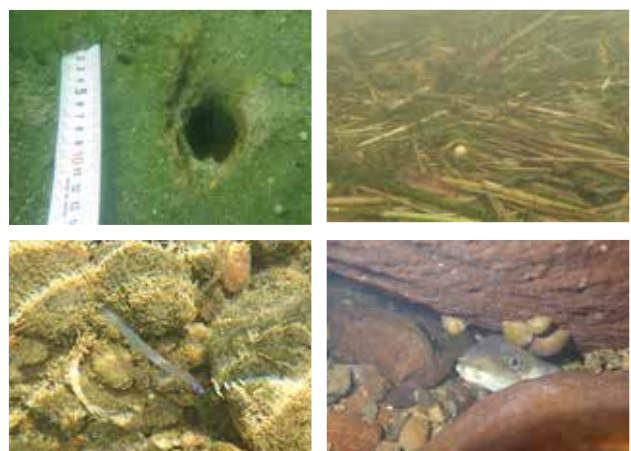
堰堤より下のステーション (St) A と比べて、堰堤の上のSt Bや、
さらにもう1つの堰堤より上のSt Cでは、ウナギが獲れた数が少
なくなっていました。

(鹿児島県水産技術開発センター)

ーウナギが住みやすい環境とはー

隠れ場所

ウナギは砂や泥の多い場所では砂に潜るか、巣穴を掘ります。石や水草がある場所ではその隙間に隠れます。小さいウナギは落ち葉などの堆積物も利用します。また餌となる小動物も、重要な条件です。



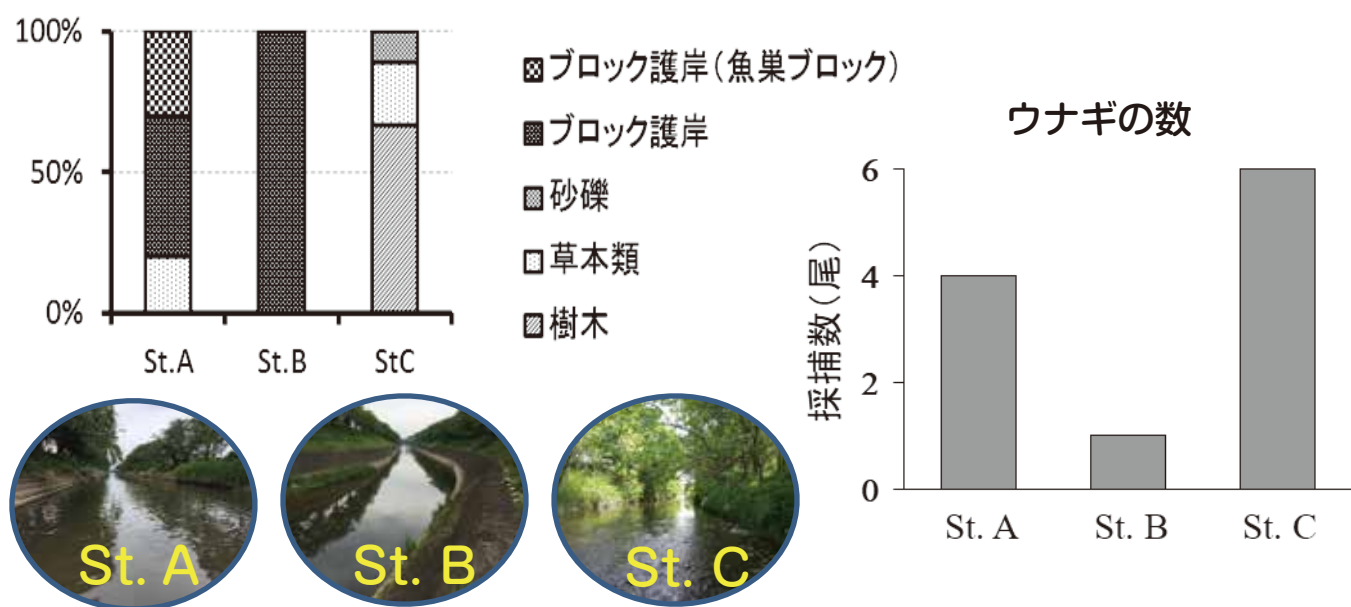
ウナギの隠れ場所

左 上：ウナギが掘ったと考えられる巣穴

右 上：ウナギが捕獲された落ち葉などの隠れ場所

左右下：石の隙間に隠れるウナギ

<岐阜県新境川の事例>



ブロックだけで覆われた場所よりも、木や草がある場所でウナギが獲れました。
(岐阜県水産研究所)

ウナギが住みやすい場所を保全又は創出するとともに、放流する場合もこうした住みやすい場所に行くことが望ましいでしょう。

ーウナギの生息環境を広げるためにできることー

河川にウナギの住みやすい場所があっても、そこまでウナギが遡上できなければ意味がありません。次にウナギの遡上を助けるための方法を紹介します。

ウナギの遡上能力

ウナギは体を支えられる突起物があれば直角な壁面でも簡単に登れます



遡上 × △ ○

登っている様子

凹凸大のコンクリート板では、多くのウナギが直角でも登れました
(愛知県水産試験場)



ただし、実際の河川では水流に負けて遡上が困難な場合があります。
(鹿児島県水産技術開発センター)

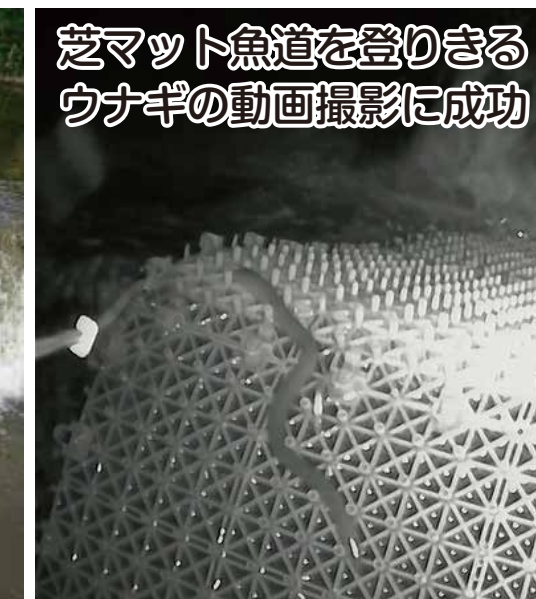
動画 <http://kagoshima.suigi.jp/userinfo.html>

芝マット魚道

写真の堰は、ウナギの遡上を阻害していましたが、芝マット魚道を設置すると、遡上が可能となりました。



芝マット魚道の設置風景

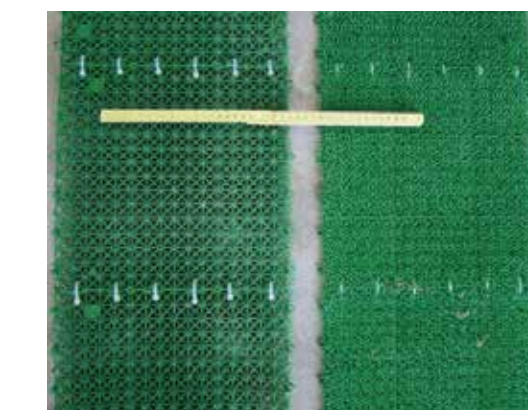


芝マット魚道を登りきるウナギの動画撮影に成功

紹介PDF <http://kagoshima.suigi.jp/Kouhou/h28/H28.7うなぎ.pdf>
動画 <http://kagoshima.suigi.jp/userinfo.html>

材 料

芝マット 30cm×30cm 厚み2cm 連結可能(爪、穴付)：市販品
堰堤の落差や幅に合わせて数枚を準備
オールアンカー(深さ4cm、直径6mm)または、コンクリートビス(5×60)
ワッシャー(直径2cm、穴径6.5mm程度)
インシュロック(芝の連結部を補強)
工具：振動ドリル、インパクトドライバー、ハンマー、ハサミまたはカッター



設置コスト

材料費：1.2m(幅30cm)あたり約600円
(芝マット4枚、設置用ビス8本等)
※労務費別途
設置時間は1.2mあたり2名で1時間程度

(鹿児島県水産技術開発センター)

※ 設置する場合には河川管理者と協議しましょう。